

PTA会報

No.44 2006.3

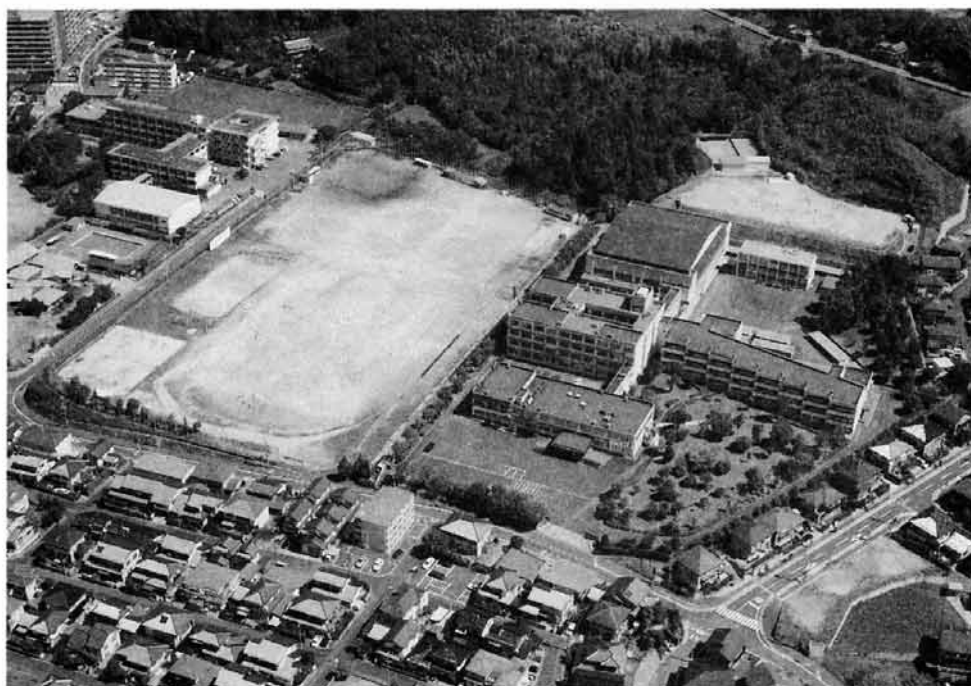
嵩 山



松江東高

目次

○ P T A副会長挨拶	1
○ 平成18年 春 卒業生に	2
○ 三年生に贈る言葉	3
○ 部活動報告	8
○ P T A会務報告	17
○ 補習科案内	19
○ 編集後記	20



夢の実現に最大限の努力を



PTA副会長

佐々木 博 章

私は団塊の世代の人間です。ベビーブームによる同世代が多く、大学入試・就職等多くの競争社会を経験して来ました。私は図らずも高校では部活動を一年生で止めてしまいました。親から国立大学でないと大学には入れてやれないと言われていたので、早めに受験勉強をするためです。うるさい親父から離れて暮らしたいとの願望からも頑張った記憶があります。ただ将来何になりたいから、何大学の何学部に行きたいと言うのではなく、どこの大学でも良い、偏差値とにらめっこして大学を決めたものです。

最近の学生は、将来の人生設計が見出せない者が多いと言われていますが、我々の学生時代を考えると理解できるところがあります。ただ今は情報化社会で、色々な選択肢も広がっており、早くから将来の人生設計を決めやすい状況にあると思います。人生設計を早く描いて、それに向かって勉学・努力を重ねて欲

しいものです。

最近の現象として、ニートとかフリーターのように競争社会に背をむけようとする人々があります。色々な理由があるかもしれませんが、残念なことだと思います。競争社会が良いと言っているのではないですが、世間一般的には学生は勉学することで、その結果一流大学に入学出来、一流会社に就職出来るようになり、勉学を疎かにすれば、その結果は自ずと知れたことになると思われます。しかしこのような勉学一辺倒から、最近では大学独自の評価基準による推薦入試が増えてきています。また、今社会で欲しがられて居る人材は、がり勉型ではなく、バイタリティーのある責任感のある人材を欲しています。その社会のニーズに応えるように多様化した学校教育が必要となってきました。

日本は戦後初めて人口が自然減に転じ、今後益々少子化が進むと言われています。男女が結婚して子供を産み、育てるといったこれまで人類が繰り返してきた生命継承の営みより、人生の意味を別のところに求めようとする価値観が社会に広く浸透してきたこともその一因であると思います。子供が減少すれば、国力が弱まるとか、高齢化社会となり年金制度が成り立たなくなるとか色々言われています。少子化は学校教育にも影響を及ぼすこと

になります。今の国立・私立大学数が維持されるならば、容易に大学に入れると言う風潮が出来上がり、学力の低下が懸念されます。

このような社会状況の中で、今時の高校生は、社会より自分、未来より今が大事と言う考え方の生徒が多いのが実情です。しかし自分でしっかりした考えの基に、将来の夢を早く見出すことが重要です。色々な夢がありますが、東高生徒の場合の夢の実現には大学受験は避けて通れないと思います。長い人生の中で、大学受験で頑張る一二年間は僅かな時間です。その時間に一生懸命頑張ることはそんなに難しいことはありません。社会人となって、人間関係とか色々な困難なことにぶち当たることを考えれば、勉学することは他人のことなど考えることなく、ひたすら机に向かえばよいことです。これをがり勉と言う人がいますが、そうではありません。短期間に最大限の努力をすることは、根性を養うことになり、自分の夢に対する責任を全うすることにもなり、まさしく社会が求めている姿に合致することになります。早く自分の夢を見つけ、その夢の実現に向かって最大限の努力をして欲しいと思います。親としても、悔いのない高校生活を送って欲しいと言うことが願いです。

平成18年 春 卒業生に



教頭

梅瀬 龍司

今年度、東洋大学が募集した「現代学生百人一首」の入選作の中の一つに、次のような高校三年生の作品があった。

“未来というワケのわからぬ存在を

私の形に切り抜いていく”

まだ見ぬものに対する不安を抱きながらも、自分の未来に対して、積極的に関わろうとする力強い意志を感じさせてくれる。東高での高校生活を終えようとしている三年生諸君は、今どのような思いでいるだろうか。この作品を作った生徒と同じように、自分の未来について考えているとしたら心強い。

“僕の前に道はない 僕の後に道は出来る

道は僕のふみしだいてきた足あとだ

だから 道の最端にいつでも僕は立っている”

これは、高村光太郎の詩「道程」の始まりの一節である。

本校生徒のほとんどが、上級学校への進学志望者であり、三年生は歩んできた道の最端に立ち、自分の道を切り開こうと、現在受験で戦っている最中である。

その生徒諸君の歩んできた道を振り返ると、そこにはいつも同じ方向を向き、共に歩むたくさんの仲間達の足あとがあり、また、学校生活で繰り広げられる営みを陰で支えてくれる保護者や教職員の存在があった。

高校に入学してすぐに二泊三日で行われた三瓶合宿。一年生冬の大山スキー研修。多くの生徒が取り組み、汗を流した部活動。二年生の時に島根県を中心に開催された全国総体の競技で活躍する人も、その競技を支える人も一つになって盛り上げた大会であった。皆で協力して作り上げた学園祭。そして、三年間の勉強の成果をぶつけた大学入試センター試験。

再び通ることのない一度きりの道を歩み終えた諸君、これからは自分ひとりで、自分の道の最端に立ち、それぞれが自分の道を切り開かなければならない。ここが諸君の旅立ちへの出発点である。

詩は続く。

“何という曲がりくねり
迷いまよった道だろう”

道はいつも真っ直で大道とは限らない。

“絶望に閉じ込められたあの道”

“苦悩にもみつぶされたあの道”

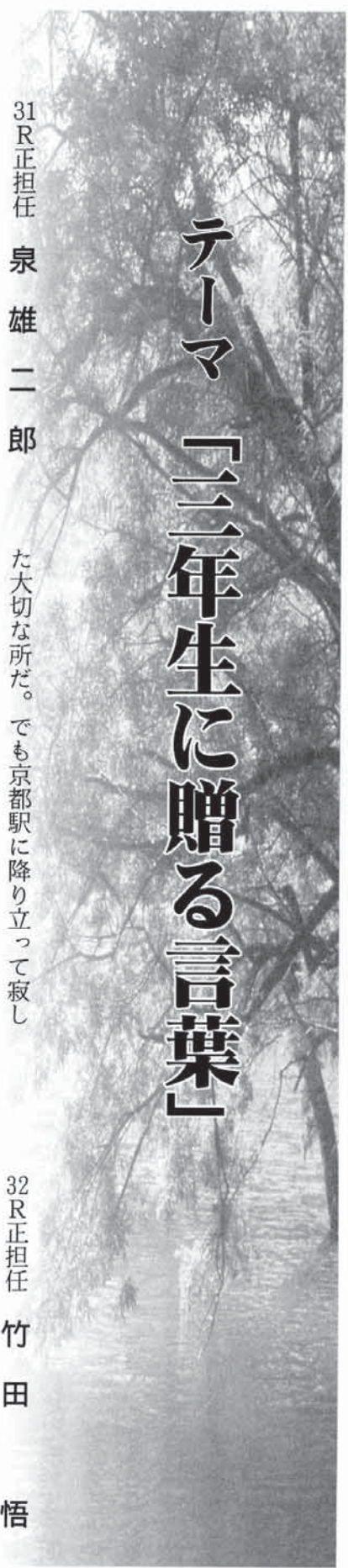
にぶつかり思い悩むこともあるだろう。

しかし、歩んできた過去はこれから歩む未来のためにある。そこで知ったこと、学んだことが迫り来る時流の変化へと対応できる力ともなる。

またいつの日か人生の分岐点で立ち止まり、道を振り返ったとき、まぎれもなくこの時、この場所が自分の夢の出発点になっていると自覚でき、自分の歩んで来た道を肯定的に受け入れることができるよう、一時の安易な進路選択より、確かな将来を選んでもらいたいと思う。

学校において、使命感をもって全力を尽くしている教職員とともに、生徒諸君の教育に携わり、その成果や一人ひとりの成長を見つめることは大きな楽しみである。

本校を卒業する一人ひとりの生徒諸君が、二十年后あるいは三十年後に、どのように成長を遂げ、活躍してくれるか。それぞれの生徒諸君が、自らの優れた資質を発揮して、自己実現を果たしている姿を見ることができたら、この上もなくうれしいことである。



テーマ「三年生に贈る言葉」

31 R 正担任 泉 雄 二 郎

31 R (SS1期生)の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、スーパースポーツメン(SS)であり、またスーパースिंगガーズ(SS)でもありました。スーパースタディー(SS)と言われたことは一度もなかったですが、スーパースイエンス(SS)、そして紛れもなく31 Rはスーパースチューデント(SS)が集うクラスでした。皆さんが開花するのはこれからです。あちこちに、どんな花が咲くのか、楽しみにしています。

31 R 副担任 岩 町 暁

またね

最近は何回が減ったけれども、毎年京都を訪れる。京都は十代の終わりから二十代前半を過ごした街であり、思い出がいっぱい詰まっ

た大切な所だ。でも京都駅に降り立って寂しく思うのは、僕が全くの旅行者になっ
てのことである。京都に住んでいた頃、僕は旅行者などではなかった。この街に暮らし、毎日この街の空気を吸っていた生活者だった。しかし、今は一人の旅行者であることを、残酷にも京都駅は教えてくれるのである。

京都に行くのならやっぱり冬が一番良い。

まず観光客が少ないというのが良い。そして中京の町屋を歩いているときに雪でもちらついでくれれば言うことなしの風情となる。洛北の小さなアパートから毎日見上げていた比叡山が白くなると、糺の森近くの鄙びた居酒屋でおでんをつまんでみたくなる。そう、風景は変わっても僕の京都は心の中できっと生きているのだ。

これから松江を離れていく人たち。あなたが行くその街に出会いが待っているでしょう。その街とその人との出会いを大切に。

また、会おう。

32 R 正担任 竹 田 悟

「黄金の10年」

教員生活十四になるが、同じ生徒達と三年間関われるということは今まで一度しかなかった。このたび松江東高校二十一期生と三年間ともに生活し君達の成長を一番近くで見ることができたこと、大変幸せに思う。

高校生活が終わり、いよいよ新しい生活のスタートである。今までは「決められたことを皆で一緒にやる」ということが多かったが、これからは「自分がやりたいことを自分で選んで自分の責任で行っていく」というスタイルに大きく変わっていく。自由になる反面、行動への責任は自分で取らなければならなくなる。これからは軽率な行動を取らぬよう注意するとともに、この自由を有効に活用して自分をしっかり磨いて欲しいと思う。

これからの十年は自分の人生を方向付ける貴重な時期である。多様な価値観の理解、自

己発見、人生観、仕事観、恋愛観の確立など豊かな人生を送るための大切な部分はこの10年で形作られる。若い頃の失敗は許される。様々なことにチャレンジし、多くの経験から得られたものをもとにして、より良い自分を作ってもらいたい。そして好奇心、気力、体力、時間など全てに於いて充実したこの黄金の時期を大切に過ごし、是非自分らしい生き方を見つけてもらいたいと思う。

最後に、恒例となったキャッチフレーズを君達に贈り終わりたいと思います。

「10年、爆発!!」

32 R 副担任 岩崎 英子

二十一期生の皆さん、御卒業おめでとうございませう。

幼稚園から始まって高校までは誰もがほぼ同じ道を歩んできましたが、これからは人それぞれ的人生に向かって道が大きく異なっていきます。その分岐点に、今立っていらっしゃると思います。一回性の人生を本格的に踏みしめ歩いていかれる上で、是非大切にして欲しいことを挙げてみたいと思います。

- 1、心と体の健康
- 2、御両親を始めとする御家族

- 3、知音ともいうべき友人
 - 4、郷土・母国日本
 - 5、生涯を賭けるに足る仕事
 - 6、人間としての誇り
- 心豊かな日々の積み重ねであることを、願ってやみませう。

33 R 正担任 阪本 美樹

「未来への一步」

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。担任として、三年間一緒に過ごすことができたことを、本当にうれしく思っています。そして、改めてこの職業を選んで良かったと感じています。このように感じさせてくれた、皆さんとの出逢いと、この三年間は私にとって掛け替えのないものです。

この三年間、将来について考え、たくさんの決断をしながらここまでできましたね。その中でも、今、進もうとする道への決断は、皆さんにとって大きな決断だったと思います。その決断に対しての思いは、いろいろでしょうが、一つ言えることは、「全てが決まったわけでは無い」と言うことです。未来へ向かってほんの一步踏み出ただけです。大切なものは、これからです。これから、どんな出逢い

をして、どんな時間を過ごしていくかで、未来はどんどん変わります。まだまだ、皆さんの可能性が秘められているのです。皆さんが今から踏み出す一步が、素敵な明るい未来に続く一步であることを祈っています。

33 R 副担任 清井 高志

卒業生の皆さんへ

卒業おめでとう。皆さんに、私のメッセージとして「論語読みの論語知らず」というフレーズを紹介します。なるほどなあ、と思ってもらえば喜びます。

この「論語読みの論語知らず」を意味もわからずに難解な論語を読んでも仕方がないと、否定的に捉えないで、人生の教科書として、孔子さんの言ったことを今のうちから頭の隅のどこかに温めておくと考えてください。皆さんは、授業の前に、数分間でも教科書を開いて、目を通しておくだけで理解が違ってくることを知っているでしょう。これと同じ事です。私も、君たちの頃に授業で習っていたのですが、論語というものがあるという程度でした。それでも、二十代で少し見栄を張って、「俺は論語を読んでいる。」というもので

した。しかし、年を重ね、経験を積むことによって「そうか、なるほど、こういう事だったのか。」と身近に感じるようになりました。将来、退職したならば、論語研究会に入会して、勉強してみたいと思っています。

子曰、「われ十五にして学に志し、三十にして立ち、……」。三十歳にして立つためには、二十代の努力と勉強が重要であるということです。自分自身を振り返れば、努力が足りなかったと思います。君たちは、二十歳でどんな勉強をしておくべきか。詳しくは、考うべし。

34 R 正担任 小林 三高

「贈る言葉」

二十一期生の皆さん、卒業おめでとうございます。君達が東高に入学してからの三年間は、すべての面においてきちんとした行動ができ、とても素晴らしいと思っています。これから、自分が選んだ道を一步一步進んでいくことになりましたが、東高で身につけた生活力をベースにし、強くたくましく、人に優しく生きていってほしいと願っております。

卒業する君達に、私からいくつかの願いがあります。一つ目は、常識のある大人になっ

てほしいということ。二つ目は、自分が飛びこんだ世界の中で、様々な人の生き方を知り、考え、その中から自分の生き方の糧となるものを見出すこと。三つ目は、人との出会いを大切に、友達を大切にすること。四つ目は、自分の中に固定観念があれば、それが社会生活の中で、正しく生かされるのかどうかをよく考えること。以上の四つの点は、私からの強いお願いです。未来に向けて着実に進んでいける二十一期であれ！君達の今後の成功を祈ります。頑張ってください。

34 R 副担任 田中正樹

「人は前進するようにつくられている」

「あなたはなぜ山に登るのですか」という問いに対し「そこに山があるから」と答えるという話はどこかで聞いたことがありますね。これは考えてみると、そこに山があるからではなくそこにある山を見つめているからだと思います。人は何かを見つめていると無意識にそれに向かって近づこうとする。皆さんはそんな気がしませんか。「人は基本的に見つめているものに向かって前進する生物である。」と私は考えています。君達の足が前進するための構造を持っているように、気持ちも行為

も見つめているものに近づくようなくみを
持っていると思っています。

これからの長い人生、山あり谷あり大変とは思いますが、ぜひ目標を見つめ続け前向きに生きていってください。そうすれば時間はかかるかも知れませんが、必ず目標に近づいていくものと信じています。健闘を祈ります。

35 R 正担任 舟津 亮二

「将来は、中学校の社会か英語の先生になりたいです。」

中学校の卒業文集に私はこのように書きました。二十年以上も前のことです。私が教師になりたいと思ったのは、当時の社会科の先生の影響かな、と思っています。その先生は、いろいろな形で私たちに平和について考えさせてくれました。ある時は歌を歌い、ある時は熱く語り：。「こういう人になりたいなあ。」そう思いました。

これからの生活の中で、数多くの出会いがあります。その出会いが自分の生き方に大きな影響を与えることもあります。人との出会いを大事にしてください。

その社会科の先生が言われたことを卒業する皆さんにも伝えます。

- 1、井の中の蛙になるな。広く世間を見つめよ。自分の殻に閉じこもるな。そして人と手をつなげ。
- 2、楽天主義で生きよ。
- 3、弱い者の立場に立てる人間になれ。
- 4、どんなことでもいいから世の中を変えていく力になれ。
- 5、しっかりこれから勉強して、賢い主権者になれ。

35 R 副担任 間庭 竜 介

「今日は、残された人生の最初の日」という言葉を目にしました。私は、ハッとしてその本を手にし……ていません。

さて、君たちは今、十八の春というスタートライン（最初の日）に立っています。その先には、残された人生（未来）が待ち構えています。そこにいる君たちは、裸ではありません。十八年間の自分を身にまといています。努力した自分、怠けた自分、勝ち得た自信、失った自信もすべてです。何一つ捨てることはできません。しかし、その中身は今後の生き方次第で変える（失った自信を取り戻すなど）ことができます。力というものは、時間と重さに比例します。

私は、君たちと過ごしたこの三年間を背負って教員としての人生を生きていきます。そしていつの日か、互いに素敵な着物を身にまとった姿で再会できる日を楽しみにしています。卒業おめでとう。そして何よりも君たちに出会えたことに感謝。

36 R 正担任 竹 並 礼 子

三年前の入学式前夜、私は突然の高熱に見舞われた。入学式とあなた方との出会いが懸念されたが、杞憂だった。あなた方は実に幼く、かわいく、素直だった（今でもね）。

焼酎のCMで、「夢を持って励まされ、夢を見るなと笑われる」という文言があって、ふとあなた方が想われた。この数ヶ月の間に、夢の方向を変更せざるを得なかった人も少なからずいるかと思う。

大人になると、選択のたびに何かを得、それと同時に何かを失っていく。努力が不足していたり、努力の方向が間違っていたら当然望むものは手に入らない。しかし、そうであれば夢は努力で叶う……否である。夢は幻でもあり、努力は必ずしも自分の望む形で叶うものではない。しかしだからこそ、夢は素敵で努力は尊いのではなからうか。努力が報

われ夢が叶う喜びだけではなく、報われず叶わぬ空しさを知って初めて、それらへの情熱は真に根を下ろすと思うのだ。

いつか努力が思いもかけぬ所で自分を支え、夢が目的や目標ともなって自分を支えてくれるかもしれない。東高での努力と夢の意味をこれからも考え続け、根を下ろした人生を歩んで欲しいと思う。卒業おめでとう。

36 R 副担任 玉 野 二三男

『御卒業にあたって』

学校に勤務して、はや三十年余が経ちます。卒業式も、同じほど経験してまいりました。いつも思うのです。『卒業していった生徒諸君は皆、どこでどんな生活をしているのだろうか』と。

これからは、進学したり就職したりと、自分の進む道は自分で決め（私の場合）、それぞれが新しい人生を歩み始めるわけです。義務教育に近い高校時代とは違って、社会からは、成人並みに扱われることになります。自宅以外から通う人は、自分で生活を切り盛りしていかなければなりません。自分の考えを持たないで安易に群れたり、付和雷同という居心地の良い逃げ場に安住することなく、何事に

おいても常に目標を持ち、挑戦し続けて欲しいと思います。

新しい生活が始まると、新しい人たちとも沢山出会います。私は、大学に入学して以来三十五年以上経ちますが、沢山の方々とのお付き合いが続いています。私の宝です。皆さんも、人と人との出会いを大切にし、自分以外の人の素晴らしさも知り、生きていることの喜びを実感してください。

働き始めた君たちと一献傾けて、大いに語りたいね。楽しみに待っています。健康で!!

37R正担任 林 由実子

“うれし涙”を流せる人生

年々泣かなくなってきた。感受性が鈍ってきたのか、体質が変化しているのか、年なのか。泣くとしても、正確には悲しい時は泣かず、悔しいときだけ……。どうも最近、上司に何かを注意されると、昔は悲しくて泣いたのが、今はひたすら悔しくて泣くOLが多いそうだ。まして“うれし涙”など、今どき結婚式の花嫁ですら流さない。

人生において“うれし涙”を流せる出来事などそうそう起こらない。何かを必死で頑張つて、勝負に出て、そして勝つ。圧倒的に勝つ。

そのプロセスがないと、“うれし涙”にはつながらないから、そういう意味では“うれし涙”は涙の中では別格である。

この二年間、みんなの“うれし涙”をたくさんみてきた。試合に勝った、いい演奏ができた、大学に受かった。クラスが一つになった、他人の優しさにふれた……。悔しくて流した涙のあとの、“笑顔”と“うれし涙”の美しいことといったらなかった。みんなの心の有り様に、自分も“うれし涙”が流せる人生を送りたいと心から思うのである。

37R副担任 村上浩二

「親業」

「育てたように子は育つ」とは言うものの、ついつい愚痴が出てしまう。受験の諸手続きは何もかも親まかせ。学習の忙しさ故もあるが、もともと自分に係わることを自分の責任においてやろうとする気持ちがない。金融機関の窓口に行くのが億劫、郵便局の窓口で「書留速達でお願いします。」の一言に躊躇する。更には受験要項の細かな注意書きを読むことすら面倒がる。つい、「自分のことでしょ。」と怒鳴りつけたくなる。ふくれるのが目に見えるので、ぐっと言葉を飲み込む。「あー、

こんな風に育てたんだから仕方ないわ。」

世間の諸々の職業には訓練が必要で、それなりに研修もある。ところが「親」というなりわいにはそれがないのだ。だからだれしも術を知らず、あれがよかれ、これがよかれと手探りを繰り返す。ないものねだりのベストアンサー探しだ。その結果が愚痴になる。

とはいっても愚痴ってばかりもいられない。目の前で子供らはどんどん大きくなり、新しい環境へと飛び込んでいく。まもなく「社会人」として「権利」と「責任」を持つのだ。まだ間に合うかも。親業の最大の任務は次世代の育成である。親としての責任を果たさねばならない。子供の視線に引き込まれ、目の前の小さなハードルばかりに目を奪われないで、遠くを見据えて伝えていかねば。いずれこの子供らが自分たちよりもっとひどい思いをすることになるかもしれないから。素人なりに「親業」を一生懸命勤めることはできるはず。さあ、がんばりましょう。



部活動報告

●平成17年度●

運動部活動

☆バレーボール部

◆中国県予選

男子 予選敗退

1-2 益田
0-2 松江工業

女子 第6位

予選リーグ戦

2-0 大社
2-0 松江農林
2-1 江の川
1-2 安来
1-2 松江商業
0-2 松江市女
0-2 大東
0-2 開星

順位決定リーグ戦

2-1 江の川
1-2 安来
1-2 松江商業
0-2 松江市女
0-2 大東
0-2 開星

◆県総体

男子 1回戦 0-2 江津工業

女子 ベスト8

2回戦 2-0 矢上

3回戦 2-0 益田産業

4回戦 0-2 安来

◆県新人戦

男子

予選グループ戦

1-2 松江北

敗者復活戦

2-1 三刀屋

決勝トーナメント

0-2 松江工業

女子

第3位

予選グループ戦

2-0 松徳学院
2-0 大田
2-0 津和野
0-2 安来
2-1 松江農林
0-2 出雲西
1-2 松江北
2-0 江の川
2-0 大東

リーグ戦

順位決定リーグ戦

◆県選手権

男子 予選敗退

2-1 平田
0-2 大東

女子 1次予選第2位

2-0 出雲農林
2-0 益田東
2-0 大東
2-1 松江北
0-2 安来

決勝T

2-0 大東
2-1 松江北
0-2 安来

☆バスケットボール部

◆中国県予選

男子 2位

1次予選

2回戦

3回戦

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

2次予選

◆中国大会

男子 ベスト8

1回戦 74-54 山口

2回戦 54-78 岡山学芸館

女子 ベスト8

1回戦 88-56 八頭

2回戦 53-67 宇部商業

県総体

男子 1位

2回戦 81-54 益田

3回戦 115-59 益田産業

ベスト5賞 石橋泰史、永田達也

ベスト5賞 秦あかね、青砥諒子

ベスト5賞 松江農林

ベスト5賞 大社

ベスト5賞 出雲商業

ベスト5賞 松江北

ベスト5賞 松江商業

ベスト5賞 大東

ベスト5賞 江の川

ベスト5賞 松江北

ベスト5賞 出雲西

ベスト5賞 松江北

ベスト5賞 大東

ベスト5賞 益田東

ベスト5賞 出雲農林

ベスト5賞 松江北

ベスト5賞 安来

ベスト5賞 大東

準々決勝 79 | 46 浜田
準決勝 79 | 67 松江工業
決勝 68 | 66 出雲北陵

ベスト5賞 石橋泰史、永田達也、

内田達大

女子 2位

2回戦 127 | 22 松徳学院
準々決勝 88 | 57 出雲
準決勝 67 | 59 松江北
決勝 71 | 72 松江商業

ベスト5賞 下邊美穂、神門かす美

◆全国総体

男子

1回戦 74 | 91 市立柏(千葉)

◆選抜県予選

男子 2位

2回戦 98 | 51 松江西
3回戦 91 | 42 大社
準々決勝 80 | 40 出雲工業
準決勝 80 | 54 松江商業
決勝 63 | 64 出雲北陵

ベスト5賞 松原達也、内田達大

女子 1位

二回戦 97 | 48 津和野
準々決勝 124 | 43 松江西
準決勝 65 | 58 出雲北陵
決勝 69 | 62 松江商業

◆全国選抜

女子

2回戦 53 | 109 山村女子(埼玉)

◆県新人戦

男子 1位

2回戦 73 | 60 松江高専
3回戦 91 | 43 安来
準々決勝 106 | 54 浜田商業
準決勝 69 | 46 松江北
決勝 75 | 50 出雲北陵

ベスト5賞 内田達大、柴田崇、

松本達朗

女子 1位

2回戦 112 | 16 江津
3回戦 87 | 52 大社
準決勝 65 | 43 松江北
決勝 61 | 56 出雲北陵

ベスト5賞 下邊美穂、秦あかね

☆卓球部

◆中国県予選

男子団体

1回戦 3対1 江津工業
2回戦 0対3 大田
男子ダブルス
3組参加 2回戦までで敗退

男子ダブルス

男子シングルス

7名参加 2回戦までで敗退
女子ダブルス
1組参加 野津・田中 ベスト32
女子シングルス
3名参加 野津佑那 ベスト32
前田絵里佳 ベスト32

◆県総体

男子団体

1回戦 3対0 横田
2回戦 0対3 平田
男子ダブルス
3組参加 三村・青戸 ベスト32
男子シングルス
7名参加 太田直希 ベスト64

男子シングルス

女子団体

1回戦 3対0 松江ろう
2回戦 0対3 出雲
女子ダブルス
2組参加 2回戦までで敗退

女子シングルス

4名参加 野津佑那 ベスト32

◆国体県予選

男子ダブルス

3組参加 2回戦までで敗退
男子シングルス
7名参加 2回戦までで敗退

女子ダブルス

2組参加 塩瀬(明誠)・田中 ベスト16

女子シングルス

3名参加 野津佑那 ベスト32

前田絵里佳 ベスト32

◆県一年生大会

男子団体 2チーム参加

1回戦 B3対0 松江南C

2回戦 B0対3 出雲A

A3対0 隠岐水産A

3回戦 A0対3 出雲工業A

男子シングルス

7名参加 3回戦までで敗退

女子団体

2回戦 3対1 松江北

準々決勝 0対3 明誠

女子シングルス

1名参加 前田絵里佳 ベスト8

◆県高校選手権

男子シングルス

7名参加 2回戦までで敗退

女子シングルス

3名参加 野津佑那 ベスト32

前田絵里佳 ベスト32

◆県新人大会

男子団体

1回戦 1対3 遼摩

男子ダブルス

3組参加 2回戦までで敗退

男子シングルス

6名参加 3回戦までで敗退

女子ダブルス

1組参加 野津・前田 ベスト16

女子シングルス

3名参加 前田絵里佳 ベスト32

野津佑那 ベスト64

田中梨絵 ベスト64

☆テニス部

◆島根県個人選手権松江地区予選

男子シングルス

4人、ダブルス3組 地区予選突破

女子シングルス

5人、ダブルス2組 地区予選突破

◆島根県個人選手権

男子シングルス

ベスト16 林 誠 (県総体出場権獲得)

女子ダブルス

ベスト8 仁宮章恵・森脇夏紀組 (県総体出場権獲得)

ベスト16 吉岡真里奈・勝本 瞳組

シングルス

ベスト16

周藤美沙子、吉岡真里奈 (県総体出場権獲得)

ベスト32

仁宮章恵、勝本 瞳

◆第43回島根県高等学校総合体育大会テニスの部

男子 団体戦 2回戦敗退

シングルス ベスト8 林 誠

ベスト16 高梨和彦

(中国大会出場)

女子総合第6位

団体戦 ベスト8

シングルス ベスト8 吉岡真里奈 (中国大会出場権獲得)

ベスト32 仁宮章恵、周藤美沙子

ダブルス ベスト16

吉岡真里奈・勝本 瞳組

◆県新人戦

男子ダブルス

第3位 林・吉岡組

ベスト16 藤本・福岡組、近藤・石川組

シングルス ベスト4 林 誠

ベスト8 吉岡宏樹

女子 団体 準優勝

ダブルス ベスト8

吉岡真里奈・勝本瞳組

シングルス ベスト8 吉岡真里奈

ベスト16 勝本 瞳・長尾香菜子

福原香穂里・赤木宏美

ベスト32 錦織めぐみ・井戸歩夢

◆全国選抜テニス大会県予選

男子 団体 第3位

女子 団体 準優勝

(全国選抜テニス大会中国地区大会 出場、14年ぶり)

◆県高体連学年別

女子 一年生の部 第1位 赤木宏美

第3位 糸原陽子

ベスト16 青戸海里

ベスト32 高梨麻子

長瀬知佳

二年生の部 第1位 勝本 瞳

ベスト8 長尾香菜子

ベスト16 岡崎裕子

ベスト32 福原香穂里

山崎愛美

☆ソフトテニス部

◆県総体東部地区予選

男子団体

一回戦 1-2 大社

男子個人

安部昭弘・吉岡武寿組 予選通過

内田貴之・石川 康組 予選通過

中村大地・岩崎佳介組 予選通過

田部成明・田邊敬明組 予選通過

女子団体

1回戦 1-2 松江農林

女子個人

青木茉莉子・荒金恵美組 ベスト32

中村友紀・深貝 葵組 予選通過

矢田真奈美・宮西恵里組 予選通過

◆県総体

男子団体

1回戦 0-3 出雲工業

男子個人

安部昭弘・吉岡武寿組 2回戦敗退

内田貴之・石川 康組 2回戦敗退

中村大地・岩崎佳介組 2回戦敗退

田部成明・田邊敬明組 2回戦敗退

女子団体

1回戦 2-1 三刀屋

2回戦 0-2 安来

女子個人

中村友紀・深貝 葵組 ベスト32

青木茉莉子・荒金恵美組 2回戦敗退

矢田真奈美・宮西恵里組 2回戦敗退

小松原一恵・吉儀まなみ組 2回戦敗退

◆県新人戦東部地区予選

男子団体

2回戦 0-3 松江工業

男子個人

遠所健太郎・田辺敬明組 ベスト32

柏原大二・吉岡武寿組 3回戦敗退

福岡成二・團野賢太組 2回戦敗退

岩水孝則・杉原宏太組 2回戦敗退

女子団体

2回戦 1-2 松江南

女子個人

小松原一恵・深貝 葵組 ベスト32

矢田真奈美・宮西恵里組 予選通過

野田麻弥・後藤恵理子組 予選通過

武田 愛・吉儀まなみ組 予選通過

◆県新人戦

男子団体

1回戦 3-0 大東

2回戦 2-1 松江南

準々決勝 0-3 江津工業

男子個人

柏原大二・吉岡武寿組 ベスト32

遠所健太郎・田辺敬明組 3回戦敗退

福岡成二・團野賢太組 2回戦敗退

岩水孝則・杉原宏太組 2回戦敗退

女子団体

1回戦 1-2 浜田商業

女子個人

小松原一恵・深貝 葵組 ベスト32

武田 愛・吉儀まなみ組 3回戦敗退

矢田真奈美・宮西恵里組 2回戦敗退

野田麻弥・後藤恵理子組 2回戦敗退

☆サッカー部

◆中国松江地区予選

代表決定戦 1-0 松江農林

◆中国県予選

ベスト16 0-1 江の川

◆県総体

2回戦 2-1 浜田

ベスト16 0-1 益田産業

◆選手権松江地区予選

代表決定戦 3-2 松江商業

◆県選手権

1回戦 2-0 出雲

ベスト8 1-6 開星

◆県新人戦

1回戦 5-0 三刀屋

ベスト16 0-0 明誠(PK)

☆バドミントン部

◆中国県予選

男子学校対抗戦

1回戦 3-0 掛合分校

準々決勝 1-3 松江商業

男子シングルス

ベスト32 余村 亮・中林幹雄・

森野真一

女子学校対抗戦

1回戦 3-0 松江西

準々決勝 1-3 松江北

女子シングルス

ベスト32 舟木優佳・渡部路子

山蔭智香

女子ダブルス

ベスト16 福岡美穂・山蔭智香組

◆県総体

男子学校対抗戦

準々決勝 0-3 大東

男子シングルス

ベスト32 森野真一・余村 亮

藤間祥太

男子ダブルス

ベスト16 藤間祥太・余村 亮組

ベスト32 森野真一・中林幹雄組

女子学校対抗戦

1回戦 3-0 出雲農林

準々決勝 0-3 松江北

女子シングルス

ベスト16 山蔭智香

ベスト32 福岡美穂

女子ダブルス

ベスト16 福岡美穂・山蔭智香組

舟木優佳・渡部路子組

吉田早織・安食 悠組

◆県選手権

男子シングルス

ベスト16 余村 亮

ベスト32 藤間祥太・酒井紀之

男子ダブルス

ベスト16 藤間祥太・余村 亮組

女子シングルス

ベスト16 山蔭智香・竹田夏菜子

女子ダブルス

ベスト16 山蔭智香・竹田夏菜子組

山坂友貴子・若槻みなみ組

◆県新人戦

男子学校対抗戦

1回戦 0-3 松江西

男子ダブルス

ベスト16 森 茂樹・高井 優組

女子学校対抗戦

1回戦 3-0 出雲

準々決勝 3-1 出雲商業

準決勝 0-3 大東

結果 第3位

女子シングルス

ベスト8 山蔭智香

ベスト16 竹田夏菜子

女子ダブルス

ベスト16 山蔭智香・竹田夏菜子組

山坂友貴子・若槻みなみ組

澤野夏美・田中志歩組

☆陸上競技部

全山陰

女子四〇〇MH 5位 小川美樹

県選手権

女子四〇〇MH 6位 小川美樹

県総体

女子四〇〇MH 4位 小川美樹

中国大会

女子四〇〇MH出場 小川美樹

国体予選

少年女子走高跳 5位 澤順子

県新人戦

男子三〇〇〇M 7位 門脇鷹也
 二年女子一〇〇M 7位 朝倉彩夏
 女子走高跳 5位 澤 順子

☆アーチェリー部

◆県春季大会

少年女子シングル 1位 金津由紀
 2位 藤本芳
 3位 廣江春香
 1位 佐々木菜穂
 2位 講部由衣
 3位 坂本百合菜

ハーフラウンド

◆県総体

女子個人

1位 藤本 芳
 2位 廣江春香
 3位 金津由紀
 4位 佐々木菜穂

◆中国大会

女子団体 11位(廣江・金津・藤本・服部)
 女子個人 25位 廣江春香
 28位 藤本 芳
 29位 金津由紀
 45位 服部沙陽子

少年女子

女子個人

1位 藤本 芳
 2位 金津由紀
 3位 佐々木菜穂
 175位 佐々木菜穂
 210位 坂本百合菜

少年女子シングル

女子50・30M

☆ボート部

◆県総体

男子ダブルスカル

(松浦・三島)

同(高木・吉田)

女子ダブルスカル

(河村・田口)

女子シングルスカル

(三浦)

同(菖蒲廻)

同(中澤)

◆中国大会

女子シングルスカル

(田口) 準決勝

女子シングルスカル

(三浦) 準決勝

女子ダブルスカル

(河村・菖蒲廻) 準決勝

◆国民体育大会ブロック予選

女子シングルスカル

(田口)(中澤) 予選敗退

◆県新人戦

女子シングルスカル

1位 坂本百合菜

2位 児玉茉莉

3位 角谷朝和子

1位 山本明日香

(田口) 優勝

◆中国大会

女子シングルスカル

(田口) 4位

☆水泳部

◆県総体

男子総合 6位

男子

四〇〇Mメドレーリレー 5位

四〇〇Mフリーリレー 5位

八〇〇Mフリーリレー 5位

二〇〇M自由形 4位 松本宏太郎

四〇〇M自由形 4位 松本宏太郎

四〇〇M自由形 5位 徳島 洋

一五〇〇M自由形 1位 徳島 洋

五〇〇M自由形 4位 天野 駿

一〇〇M平泳ぎ 7位 天野 駿

女子総合 8位

女子

五〇〇M自由形 4位 藤原郁香

二〇〇M自由形 5位 藤原郁香

二〇〇M自由形 6位 門脇久美

一〇〇M自由形 7位 門脇久美

◆県選手権・国体予選

男子

四〇〇M自由形 3位 松本宏太郎

四〇〇M自由形 4位 徳島 洋

一〇〇M自由形 8位 松本宏太郎

五〇M自由形 9位 天野 駿

五〇M平泳ぎ 10位 天野 駿

◆中国高等学校選手権兼全国高校総体中国予選

男子高飛び込み 2位 横木 遙

男子飛び板飛び込み 2位 横木 遙

◆全国総体

男子飛び板飛び込み 予選23位 横木 遙

男子高飛び込み 予選20位 横木 遙

◆島根県高等学校新人戦

男子四〇〇M自由形 2位 徳島 洋

男子二〇〇M自由形 2位 徳島 洋

男子五〇M自由形 3位 天野 駿

女子一〇〇M自由形 4位 門脇久美

☆野球部

◆島根県高等学校春季野球大会

5-11 立正大浜南

◆第八十七回全国高等学校野球大会

2-6 大東

◆島根県高等学校秋季野球大会

3-1 大社

0-10 松江北

☆ハンドボール部

◆中国県予選

4位 14-20 松江南

◆中国大会

1回戦 12-21 祇園北高校

◆県総体

1回戦 14-16 松江南

◆新人戦

準優勝 14-11 松江南

13-19 松江工業

◆中国新人県予選

☆柔道部

◆県総体

男子個人

66kg級 出場 豊島隆太

73kg級 出場 山崎賢太

90kg級 出場 小谷隼人

◆県新人戦

男子個人

66kg級 出場 豊島隆太

女子個人

48kg級 出場 足立陽子

57kg級 出場 野津ふみ

☆剣道部

◆中国県予選

男子団体

1回戦 対矢上 3-0の勝ち

2回戦 対松江北 1-4で負け

女子団体

1回戦 不戦勝

2回戦 対大社 1-2で負け

ベスト8

男子個人

釜屋憲彦 ベスト32

中国大会出場権獲得

女子個人

稲原昌子・井上春菜 ベスト32

古藤典子 ベスト16

中国大会出場権獲得

男子団体

1回戦 対川本 3-0で負け

女子団体

1回戦 対平田 3-1で勝ち

2回戦 対松江南 3-0で勝ち

準決勝 対大社 2-2(本数差)で負け

ベスト4

男子個人戦 1・2回戦で敗退

女子個人戦 稲原昌子 ベスト8

男子個人 1・2・3回戦で敗退

女子個人 ベスト8 上山千佳

女子個人 ベスト16 久保田智子

古藤典子・内藤瞳美

ベスト32 荒川絵里子・井上春菜

日高巳恵

男子団体(勝ち抜き戦) 3位

1回戦 対邇摩 勝ち(四人残し)

2回戦 対川本(二人残し)

3回戦 対大東(二人残し)

準決勝 対大社 負け(中堅戦)

女子団体(勝ち抜き戦) 3位

1回戦 シード

2回戦 対川本 勝ち(三人残し)

準決勝 対横田 負け(中堅戦)

男子団体 準優勝

1回戦 シード

2回戦 対松江工 4-0で勝ち

3回戦 対大田 2-1で勝ち

準決勝 対出雲西 3-2で勝ち

決勝 対大社 1-4で負け

☆中国新人大会出場権獲得

女子団体 ベスト4

1回戦 シード

2回戦 対三万屋 4-1で勝ち

準決勝 対大社 1-2で負け

☆中国新人大会出場権獲得

男子個人 六路、本多 ベスト16

女子個人 井上、上山 ベスト8

☆中国新人大会出場権獲得

☆弓道部

◆中国大会県予選

男子団体 予選敗退(六十射三十三中)

男子個人 予選敗退

女子団体 予選敗退(六十射二十三中)

女子個人 予選敗退

◆県総体

男子団体 7位(四十射二十中)

準決勝(四十射十九中)

男子個人 7位 広江圭祐(十二射十中)

3回戦進出 永瀬蒼人(十二射五中)

鶴鷯 侑(十二射九中)

女子団体 予選敗退(四十射十五中)

女子個人

3回戦進出 荒木富久子(十二射七中)

◆新人戦

男子団体 予選敗退

男子個人 勝部峻史 決勝進出(八射五中)

小川泰弘 決勝進出(八射三中)

女子団体 ベスト8

(予選二十射十中 決勝二十射八中)

女子個人 2位 永田愛(八射六中)

中国大会出場

7位 布野紗知子(八射五中)

文化部活動

☆合唱部

◆NHK全国学校音楽コンクール県大会

銀賞

◆全日本合唱コンクール県大会

高校Aの部 金賞

◆全日本合唱コンクール中国大会

高校Aの部 金賞

◆全日本合唱コンクール全国大会

高校Aの部 銅賞

第6回定期演奏会

(プラバホール・6月11日)

第17回プラバ室内合唱コンクール

女声合唱の部 銅賞

☆吹奏楽部

第12回スプリングコンサート(定期演奏会)開催

5月4日(水)プラバホール

島根県東部地区吹奏楽祭 参加

6月4日(土)島根県民会館

全日本吹奏楽コンクール県大会

高校Aの部 銀賞

全日本アンサンブルコンテスト

高校Aの部 銀賞3団体

高校Bの部 金賞4団体

☆弦楽部

全国高等学校総合文化祭参加

(青森県弘前市)

県高等学校総合文化祭参加

高文連東部地区音楽会出演

(プラバホール)

第10回県中・高弦楽クラブ演奏会参加

(プラバホール)

平成17年度高校生美術展オープニング記念演奏

(県立美術館)

第1回弦楽部定期演奏会開催

(島根県民会館中ホール)

- ◆第6回高校弦楽部合同演奏会参加
(プラバホール)

☆美術部

- ◆高文連松江地区絵画コンクール
6/3(金) 会場 美保関漁港周辺
入選19点

◆県高校美術展

絵画の部 入選17点

デザインの部 入選8点

- ◆全国高校総合文化祭推薦作品
(平面) 吉川千賀子

☆演劇部

[Daddy's little girl] 岩町 暁作

- ◆松江地区演劇発表会 優良賞

- ◆松江地区合同公演

「池田マートの人々」岩町 暁作

☆放送部

- ◆第29回全国高等学校総合文化祭青森大会
ビデオメッセージ部門出場

☆書道部

- ◆高文連書道コンクール

特選 橋本真希

秀作 澁谷ふみ・網師和也・山田那奈子

川角 綾

佳作 安部昭弘・中西明日奈

- ◆県高校書道展

奨励賞 川角 綾

☆科学部

- ◆世界物理年特別企画・日本物理学会
主催 Jr セッション研究発表会

「音波による気柱内振動実験」

世界物理年日本委員会特別賞

- ◆県高文連自然科学部門研究発表会

「音波による気柱内振動実験」

口頭発表 努力賞

「人工オーロラについて」展示発表

優良賞

- ◆工学院大主催「第12回全国高等学校理科・
科学研究論文」に応募

☆JRC部

- ◆一円玉募金

- ◆学園祭ユニセフクッキー販売、地雷撤廃バ

ザー・JRC 展示

- ◆赤い羽根街頭募金

- ◆年末義援金募金

- ◆手話講座

- ◆YOKOSO JAPAN WEEKS 折り鶴作成協
力



P T A 会務報告

平成十七年度 (平成十七年四月一日から
平成十八年三月三十一日まで)

一、「高校生総合保障保健」

(高P連A I U 保険) 317名

二、第1回P T A 常任理事会 (5 / 9 本校)

1、平成16年度会務報告ならびに近況報告

2、平成16年度学校徴収金収支決算について

3、平成17年度事業計画 (案) について

4、平成17年度P T A 諸会計予算 (案) について

について

5、平成17年度P T A 関係役員候補者 (案) について

について

6、平成17年度生徒活動後援会役員候補者 (案) について

(案) について

7、平成17年度P T A 総会議案等 (案) について

について

三、第1回P T A 役員会 (5 / 14 本校)

第1回P T A 常任理事会に同じ

四、P T A 総会・生徒活動後援会・学級P T A (3 年は学年P T A) (5 / 14 本校)

(1) 授業参観

(2) P T A 総会

① 挨拶

② 報告

(ア) 学校近況報告

(イ) 平成16年度P T A 事業・会務報告 (総務部長)

① 議事

(ア) 平成16年度諸会計決算 (事務長)

監査報告 (松原・井上監事)

(イ) 平成17年度P T A 役員選出 (野々村会長)

会長

……奥山恭浩

副会長……佐々木博章、三島猛、梅木祥司 (校長)

監事……井上孝治、白石厚子

理事……各支部長 (13名)

各学級委員 (21名)

教職員 (16名)

P T A 係教員 (3名)

専門委員会委員

生活指導委員……石川厚志 (長)

各地区支部長

研修委員……岡田誉子 (長)、中島早千枝、浦本恭子、小豆澤伸司、各地区副支

部長

部長

広報委員……河村英夫 (長)、

藪木明美、立脇雅子、

野津小春

進路指導委員……藤間博之 (長)、

三年学級委員、一、二年

学級委員長

(ウ) 新旧役員挨拶

(エ) 平成17年度新委員会の設置について (案) (奥山会長)

(オ) 平成17年度事業計画 (案) (総務部長)

(カ) 平成17年度諸会計予算 (案) (事務長)

以上

の議案は原案通り承認されました。

閉会の挨拶

生徒活動後援会総会

① 開会の挨拶

② 後援会会長挨拶 (野津孝志会長)

③ 議事 (議長：野津孝志会長)

(ア) 平成16年度生徒活動後援会会計決算 (事務長)

(イ) 監査報告 (松原・井上監事)

(ウ) 平成17年度生徒活動後援会役員選出 (野津孝志会長)

出 (野津孝志会長)

出 (野津孝志会長)

出 (野津孝志会長)

出 (野津孝志会長)

会長……日高和之、

副会長……釜屋則一、岡 登勇

(エ) 新旧役員挨拶

1、野津孝志会長

2、日高和之会長

3、日高和之会長より新役員紹介

(副会長・監査)

4、議長交代(日高和之会長)

(オ) 平成17年度生徒活動後援会会計予

算(案)(事務長)

以上の議案は原案通り承認されました。

④ 閉会の挨拶

(4) 1・2年学級PTA

(5) 3年学年PTA

(6) 部活動参観

五、PTA進路指導委員会(5/14本校)

六、第1回県高P連評議員会・安全互助会

理事会(5/21江津市総合市民センター)

七、第2回PTA役員会(兼 常任理事会)

及び、各委員会

(研修、広報、生活指導、休業日学校開放)

(6/25 サンラポーむらくも)

八、第47回中四国高校PTA連合会大会

(7/7・8 高知県立文化ホール)

佐々木副会長・清井総務部長参加

九、第一回保護者面談(6/13・15)

十、県高P連・安全互助会総会

(6/11 出雲市民会館)

十一、県高P連創立50周年記念大会第1回準

備委員会(7/23 サンラポーむらくも)

十二、第55回全国高校PTA連合会大会

(8/27・28 長野市) 奥山会長、清

井総務部長参加

十三、平成17年度ガーデニング講習会

(8/27はなワールド)

十四、東雲祭 文化の部

(9/1、2)

ガーデニング作品展示

保護者 47名 教職員 3名

計 50名 参加

十五、第2回高P連評議員会並びに安全互助

会理事会(9/10 サンラポーむらく

も)

十六、PTA研修旅行

(10/15 広島 平和記念資料館)

保護者 18名 教職員 3名

計 21名 参加

十七、進路研修会 1年対象 カリキュラム

説明会(11/3 約130名参加)

十八、島根教育の日

(11/1・7 島根教育ウィーク)

十九、PTA研修会

(10/22 東高校視聴覚室)

第1部 東高校文化教育部活動紹介

第2部 杵屋五司郎「三味線&トーク」

二十、3年保護者面談 (10/25・28)

二十一、県高P連中央研修会

(12/4 浜田市 いわみーる)

二十二、1・2年保護者面談(12/26・28)

二十三、平成17年度 第3回高P連評議員会

並びに安全互助会理事会(2/7 大

田市 あすてらす)

二十四、第2回常任理事会・第3回役員会

(2/18 サンラポーむらくも)

二十五、PTA会報44号

(3/3 配布予定)

二十六、進路研修会 (3月中旬 開催予定)



補習科案内

補習科は、大学進学を志しながら、志望を達成できなかった生徒諸君が、来春の合格を目ざして勉強するのを一年間援助するために設置されたものです。補習科は、あくまでも援助するところであって、主体は生徒諸君です。で、東高生の先輩としての自覚をもち、三年次にもまして規律ある生活と強い目的意識を持つことが期待されます。

授業は、演習中心に進められ、現役生と同様の科目が設定されています。

模試は、三年生と同日程で行うものの他に、本科の定期試験期間に実施するもの等があります。

講師は、校内の先生及び校外からの先生方です。補習科生のために意欲的にご指導いただいています。

補習科入試は学科試験（国語・英語・数学）と面接を行い、調査書等を加えて合格者を選考します。

出願手続きなどの詳細は、「平成十八年度松江東高等学校補習科募集要項」（三月上旬

補習科入試

- | | |
|---------|--|
| 1. 募集人員 | 約55名 |
| 2. 出願期間 | 未定 |
| 3. 試験日 | 3月29日(水) |
| 4. 試験科目 | 国語 国語Ⅰ・Ⅱ
英語 英語Ⅰ・Ⅱ・R・W
数学 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B |
| 5. 時 程 | 8:30～ 8:50 受付
8:50～ 9:00 諸注意
9:00～10:00 国語
10:10～11:10 英語
11:20～12:40 数学
13:30～15:30 面接 |
| 6. 試験場 | 松江東高校 |
| 7. 検定料 | 未定 |
| 8. 合格発表 | 3月31日(金) |

発行）をご覧下さい。ご不明な点は創立記念館二階の補習科までお問い合わせ下さい。電話は、二七―八八五二です。

なお、補習科入試の概略は次の通りです。

編・集・後・記

まず、三年生の保護者といたしまして、校長先生を始め、教職員の皆様の熱心なご指導に心より御礼を申し上げます。特に、部活動をご指導いただきました先生方には、過大なご支援を強いている現状に大変心苦しく思っております。

さて、三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様は在校中、部活動、校内行事、受験勉強などを通じてたくさんの選択、決断の場に遭遇されたことと思います。卒業後は、否が応でも自律と自立が求められ、新たな選択、決断が待ち受けております。健康に留意され、今後もよき出会いとよき選択、決断を重ね、感謝の気持ちを忘れずにご活躍されますようお願いいたします。

終わりに、ご多忙中にもかかわらず、会報への投稿などにご協力いただきました皆様、関係職員の皆様に心から御礼を申し上げます。

河村 英夫

会報の発行にあたり原稿をお寄せいただいたみなさまありがとうございました。

今の世の中、要領よく生きる人がもてはやされ、真面目に努力する人が、疎んじられるような傾向がありますが、私は、真面目な人を信用しますし、子ども達にも要領よく生きるということをしないで欲しいと思っています。卒業生のみなさんは、これからの数年でこれからの生き方を決められると思います。どうぞこの時期を大切にしてください。周りの人をそして自分を大切にできるおとなになってください。

野津 小春





〈表紙の絵〉 杉谷俊一（本校教員）

〈題 字〉

P T A 会報 森脇 哲朗（旧本校教員）

嵩山 上田久美子（十三期生保護者）